

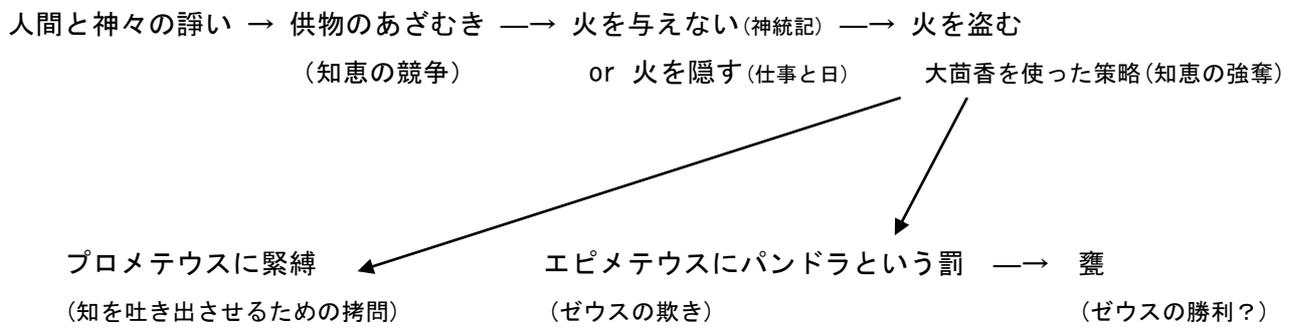
II. B 人類の成立 プロメテウスとパンドラ

人類がどのようにしてその本質をそなえるに至ったか。
人類に与えられたいくつかのものの本質を描く2つの話。

1. 人類に火を与える話 (アイスキュロス『縛られたプロメテウス』、プラトン『プロタゴラス』にも)

要 素	{	・ 供物のあざむき	—————	犠牲式の起源
		・ 火の授与	—————	人間の卓越性
		・ プロメテウスへの罰	———	永遠の罰
		・ 人間への罰	—————	女性というもの、苦悩、老年、不安

話の筋道



2. パンドラと甕

・「カロン・カコン」 —— 魅惑と災いなる女性の実体。その欺瞞性。
(美しい禍い)

・ 甕の開封 現実に幻滅・飽き飽きさせられてもなお、
希望だけは抱き続けることができる —というのはわかるが…

問：どうして「エルピス」だけが出遅れたのか。

飛び出してゆく力がなかった？

最後になったのは偶然？

残ったのはその一個だけ？

次回 領分の逸脱と侵害

1. ヒッポリュトス	Ap. 176. 7-14	(Bulf. 208. 8 - 末 2)
2. タンタロスとイクシオン	178. 4-8, 176. 末 4-177. 1	(246. 末 6-247. 1)
3. アスクレピオス	146. 末 3-147	(175)
4. イカロス	175. 2-7	(211-12)

資料

<ギリシア人の エルピス（希望）観>

ヘシオドス『仕事と日々』498-501

怠け者は、むなしい望みのかなうのを空頼みして、
食うにも事欠き、おのれの胸にあれこれと愚痴をこぼす。
食うものも十分でない窮乏の身で、人の寄る場所に座り込むような男に
つきあう「希望（エルピス）」は、どうせろくなものではない。

ソロン の断片 13.35-36

そのとき（何か災いを蒙った時）になってから人は嘆く。それまでは
人々は大口をあけてむなしき希望にはしゃぐものだ。

テオグニス 『エレゲイア』1135

希望は人間界の中にあるただひとつのよき神である。

アイスキュロス『縛られたプロメテウス』247-52 （コロス=オーケアノス神の娘たち）

コロス 「今のお話のほかにも何かなさったのですか。」
プロメテ 「人間たちに自分の死を見通すことができないようにしました。」
コロス 「あの病気にどんな薬を見つけることによって、そうなさったのですか。」
プロメテ 「人間どもに盲目の希望を植えてやったのだ。」
コロス 「それはまた人間たちにずいぶんためになるものをお与えでした。」
プロメテ 「さらにその上わたしは火を授けてやった。」

ソポクレス『アンティゴネ』615-25

（コロスの歌）

迷いさまよう希望、
多くの人にそれは益をもたらすとはいえ、
思慮を欠く欲望に欺かれる者もまた少なくはない。
幻滅は気付かぬうちに迫り来たって燃える火に足を焼いてはじめて覚る。
誰かは知らず、いみじくも言った名高い言葉—
「神に心を惑わされし者は、悪事もよきことと思ひ為す、
惑い苦しむことなく暮すは束の間に過ぎず」と。